

令和元年 6 月定例記者会見

日 時：令和元年 6 月 1 9 日（水） 1 3：3 0～

場 所：本学事務局 3 階第 1 会議室

内 容：

1. 北越コーポレーション株式会社との包括的連携協定締結について

（長岡技術科学大学 理事・副学長 大石 潔、
北越コーポレーション株式会社 常務取締役 鈴木 裕）

2. 日本原子力学会からフェローの称号を授与された件について

（原子力システム安全工学専攻 教授 鈴木 達也）

3. 上越教育大学・長岡技術科学大学 共催

学び続ける教師のための研修講座 講座 F

「ICT を活用した協働的な授業づくり

～AI（人工知能）は授業をどう変えるか～」の開催

（技術科学イノベーション専攻 准教授 高橋 弘毅）

以 上

報道資料

令和元年 6 月 1 9 日

報道機関各位

国立大学法人長岡技術科学大学
北越コーポレーション株式会社

包括的連携協定締結のお知らせ

国立大学法人長岡技術科学大学（以下「長岡技科大」といいます。）と北越コーポレーション株式会社（以下「北越」といいます。）は、下記のとおり包括的連携に関する協定を締結いたしましたのでお知らせします。

記

1. 目的

両者の連携・協力を促進し相互の発展に資するとともに、人材育成、科学技術の振興及び産業と社会の発展に寄与する。

2. 連携の主な内容

（1）研究開発

長岡技科大の持つ学術的知見を、北越が進めているセルロースナノファイバー（CNF）などの新製品開発や既存商品の機能強化などに活かし、製品価値の向上と開発のスピードアップを進める。

（2）社会的課題への取り組み

国際的に注目されている「マイクロプラスチック」問題などの社会的課題に、両者で協力して取り組むと共に、SDGsに関する取り組みを進める。

（3）人材育成と学生支援

北越は、学生の実務訓練生としての受け入れや工場見学などを通じて、長岡技科大が進める「実践的・創造的な能力の開発」に協力する。併せて長岡技科大の男女共同参画推進室の取り組みに協力する。

（4）国際貢献

長岡技科大が進める「スーパーグローバル大学構想」を支援するために、北越は、留学生の実務訓練生受け入れや、海外からの長岡技科大への見学団の工場見学受け入れなどを実施し、GIGAKUテクノパーク（GTP）ネットワークの一翼を担う。

※GIGAKUテクノパーク（GTP）ネットワークとは、産学官連携モデルを海外に展開し、社会ニーズに応える実践的グローバル技術者を育成し、グローバル産学官研究による日系企業のグローバル化を支援・牽引することを言います。

3. 協定締結日

令和 元 年 6 月 1 9 日

報道資料 （受賞関係）日本原子力学会からのフェロー称号

令和元年6月19日

報道機関各位

「日本原子力学会からフェローの称号授与について」

長岡技術科学大学 原子力システム安全工学専攻
教授 鈴木 達也

1. 日本原子力学会フェロー称号の概要

日本原子力学会で、原子力分野及び学会の発展に顕著な貢献した会員にフェロー称号を与え、更なる原子力と学会の活性化と発展を期すものです。このたび「1. 顕著な学術的貢献」「2. 学会運営への貢献」「3. その他事項 — 人材育成への貢献等 —」が認められてフェローの称号が授与されたものです。

2. フェロー称号の授与理由

（1）学術的貢献

再処理・核種分離に係わる研究開発、その中でも特に、多孔性シリカに担持させたピリジン樹脂を開発し、そのシリカ担持型ピリジン樹脂を用いたクロマトグラフィによるマイナーアクチノイドと希土類元素の分離およびマイナーアクチノイド間の相互分離などの研究成果が、再処理・リサイクル分野での多大な学術的、技術的貢献をし、今後の高レベル放射性廃棄物の処理処分低減化のために研究が進められている分離・変換技術にもその研究成果が応用できるものとして評価されています。

（2）学会運営への貢献

原子力学会の再処理・リサイクル部会運営委員として、学会運営に貢献を果たすとともに、原子力学会主催で開催したGLOBAL2011(2011年核燃料サイクル国際会議)、ANUP2016(2016年原子力展望アジア会議)の国際会議で実行委員として、会議の成功に大きく貢献したこと、また、学会内の数多くの研究専門委員会で委員、幹事を歴任すると共に、現在も「将来原子力システムのための再処理技術」研究専門委員会では主査を務めており、学会活動の活発化への貢献も著しいこと、さらには、関東・甲越支部幹事、代議員等にも就任しており、学会活動の様々な面で幅広く貢献していることが評価されています。

（3）人材育成への貢献等

文部科学省、規制庁等の原子力人材育成プログラムに係わり、他大学や研究機関が実施するプログラムにも協力を行い、長年人材育成に尽力していること、長岡技大において、原子力人材育成の高等専門学校との連携（高専連携）にも携わり、いくつものプロジェクトに係わっていること。その中でも「放射線利用施設を用いた実践的原子力技術者育成の高専・大学一貫教育の推進」プログラムでは、代表者としてプログラムを推進し、高専での原子力教育研究を施設面からも長岡技大でサポートする体制を構築したこと、などが評価されています。

これらの評価により、日本原子力学会から、フェロー称号を授与されたものです。

3. 今後の抱負

学会のフェロー称号は、これからも学術的な活動により、学問分野としての原子力を発展させ、また、今後ますます必要となる原子力の人材を育成することが期待されているものであり、長岡技術科学大学がその中心となるべく、ますます、研究・教育に励んでいきたいと思っております。

報道資料

令和 元年 6 月 1 9 日

報道機関各位

長岡技術科学大学

上越教育大学・長岡技術科学大学 共催

学び続ける教師のための研修講座 講座 F

「ICT を活用した協働的な授業づくり ～AI（人工知能）は授業をどう変えるか～」の開催

技術科学イノベーション専攻/情報・経営システム工学専攻

准教授 高橋弘毅

1. 講演会開催の背景

本学と上越教育大学は 2018 年 9 月に、両大学が教員養成、教育、研究等における人的・物的資源の相互活用などの連携協力を推進するとともに、両大学の理念や特色を活かした活動を通して、我が国及び地域の発展に寄与することを目的とする連携・協力に関する協定を締結しました。また、両大学のメンバーに加え、山梨県立大学、日本大学、(株) デジタルアライアンスの「ICT」、「データサイエンス」、「教育」の専門家メンバーがタッグを組み申請をした、国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)の委託研究「データ連携・利活用による地域課題解決のための実証型研究開発：過疎地域の学校を AI が支援する遠隔協調学習システムで結ぶことにより地域課題の解決に対応する取り組み」が採択され、2018 年 12 月から委託研究を着実に進めています。

学び続ける教師のための研修講座は、理論に裏付けされた実践を目指すための講座と位置づけ、その中でも講座 F「ICT を活用した協働的な授業づくり ～AI（人工知能）は授業をどう変えるか～」は、今後ますますその活用が求められる ICT 機器について、両大学の共同研究や NICT 委託研究の成果を踏まえ、様々なアプローチから迫ります。なお、現職教員の方はもちろん、**研修講座とありますが、教員を志望する大学生・大学院生、そして教育に関心のあるすべての皆様が対象**となりますので、広く周知をしていただきたいと思います。

2. 開催概要

日時：2019 年（令和元年）7 月 6 日（土） 13 時 開始（開場 12 時 30 分）（16 時 終了予定）

上越教育大学・長岡技術科学大学 共催 新潟県教育委員会、新潟市教育委員会 後援

会場：長岡技術科学大学 講義棟 1 階 アクティブラーニング室 2（AL2）

講演者とタイトル：

「ICT と学び合う授業づくりについての考え方」

水落芳明（上越教育大学・教授）

「CSCL システム edutab を使ったタブレット端末を活用した協働的な授業づくりの体験」

大島崇行（上越教育大学・准教授）、榊原範久（上越教育大学・准教授）

「協働的な授業づくりに AI はどう機能するか？ ～先生と AI が協働するのは夢ではない！～」

高橋弘毅（長岡技術科学大学・准教授）

参加について：無料。**現職教員の方はもちろん、研修講座とありますが、教員を志望する大学生・大学院生、そして教育に関心のあるすべての皆様が対象です。**事前参加申込が望ましい。参加申し込みは、メールまたは FAX にて。（詳細：別紙資料のポスターに記載）。

問い合わせ先：上越教育大学 大島崇行 oshima@juen.ac.jp、本学 高橋弘毅 hirotaka@kjs.nagaokaut.ac.jp

参加無料

上越教育大学教職大学院教科教育・学級経営実践コースの
大学院教員による講座を新潟県内で実施致します。
理論に裏付けされた実践を目指すための講座内容です。
また、上越教育大学教職大学院に関する入学相談も
受け付けいたします。現職教員の方、教員を志望する大学生、
そして教育に関心のあるすべての皆様、
参加費無料の講座です。ぜひ、ご参加ください。

上越教育大学教職大学院

2019 学び続ける 教師のための研修講座

後援：新潟県教育委員会・新潟市教育委員会



講座 A
6/11(火)
佐渡市

「小学校学習指導要領におけるプログラミング教育の内容和
教師に求められるもの」

教授 桐生徹・教職大学院生 高橋瞭介 他

講座 B
7/5(金)
十日町市

「小学校学習指導要領におけるプログラミング教育の内容和
教師に求められるもの」

教授 桐生徹・教職大学院生 高橋瞭介 他・十日町中学校教諭 北村弘行(2018年度修了生)

講座 C
7/30(火)
村上市

「小学校学習指導要領におけるプログラミング教育の内容和
教師に求められるもの」

教授 桐生徹・教職大学院生 高橋瞭介 他・村上第一中学校教諭 高橋一哉(2014年度修了生)

講座 D
6/28(金)
新潟市

「『主体的・対話的で深い学び』が生起する授業デザインを考える」

准教授 片桐史裕

講座 E
6/29(土)
長岡市

「学習者が主体的に学び合う授業をデザインしよう」

准教授 阿部隆幸・准教授 大島崇行・十日町市立橋小学校教諭 前田孝司(2018年度修了生)

講座 F
7/6(土)
長岡市

「ICTを活用した協働的な授業づくり～AIは授業をどう変えるか～」

長岡技術科学大学准教授 高橋弘毅、上越教育大学教授 水落芳明・准教授 大島崇行・榊原範久
(共催：長岡技術科学大学)

講座 G
8/19(月)
新潟市

「小中高大接続で子どもの将来を見すえた授業デザインを考える」

准教授 片桐史裕

講座 H
10/18(金)
新潟市

「『深い学び』を可能にする算数・数学科の授業づくり：理論と実践の
往還を実現する教師になるために」

三条市教育委員会 小中一貫教育推進課 教育センター指導主事 井口浩(2011年度修了生)・上越教育大学教授 岩崎浩

講座 I
10/30(水)
新潟市

「この問いは物語の授業をデザインするー見方・考え方を育てる国語の授業ー」

教授 佐藤多佳子・新潟市立大形小学校教諭 岩崎直哉(2014年度修了生)

詳しくは裏面をご覧ください→

申込み
方法

当日参加も可能ですが、準備の都合上、事前にお申し込みいただければ幸いです。上越教育大学研究連携
課にFAXかE-mailで、お申し込みください。

お問い
合わせ

ご不明な点等ありましたら、E-mailでお問い合わせ
ください。

FAX: 025-521-3621 E-mail: oshima@juen.ac.jp

※E-mailの場合は、件名を「学び続ける教師のための研修講座申込」とし、氏名、所属、参加希望講座、
緊急連絡先をお知らせください。

E-mail: oshima@juen.ac.jp

(上越教育大学教職大学院 准教授 大島崇行)

参加申込書

上越教育大学教職大学院 2019 年度 学び続ける教師のための研修講座

FAX: 025-521-3621 (上越教育大学研究連携課) E-mail: oshima@juen.ac.jp

お名前

緊急連絡先()

ご所属

参加希望講座回を○で囲んでください。

講座 A・講座 B・講座 C・講座 D・講座 E・講座 F・講座 G・講座 H・講座 I

※緊急連絡先は、急な講座中止の際に使わせて頂きます。



	日時・会場	担 当	テ ー マ	研 修 の 概 要
講座 A	6月11日(火) 14:00～16:00 佐渡市金井コミュニティセンター 大集会室(佐渡市千種240)	教授 桐生 徹 教職大学院生 高橋 瞭介 他	「小学校学習指導要領におけるプログラミング教育の内容と教師に求められるもの」	講演: 小学校学習指導要領におけるプログラミング教育の内容と教師に求められるもの 演習: ドローンを活用したプログラミング授業実践 予測困難な社会においては、情報や情報技術を受け身で捉えるのではなく、手段として活用していく力が求められているところであり、プログラミング教育を含む情報活用能力を育成していくことはますます重要となっています。来年度の実施に向けて、プログラミング教育研修を計画しました。多数の皆様のご参加をお待ちしております。
講座 B	7月5日(金) 15:30～16:45 十日町市立十日町中学校理科室 (十日町市新座甲2-10)	教授 桐生 徹 教職大学院生 高橋 瞭介 他 十日町中学校教諭 北村 弘行(2018年度修了生)		
講座 C	7月30日(火) 14:30～16:00 村上市理科教育センター実験室A (村上市市端町4-25)	教授 桐生 徹 教職大学院生 高橋 瞭介 他 村上第一中学校教諭 高橋 一哉(2014年度修了生)		
講座 D	6月28日(金) 13:00～15:00 新潟県立大学1号館 B棟3階1352教室 (新潟市東区海老ヶ瀬471)	准教授 片桐 史裕	「『主体的・対話的で深い学び』が生起する授業デザインを考える」	新学習指導要領のキーワードとなっている「主体的・対話的で深い学び」とは、どのような授業で生まれるのでしょうか?この講座では単なる「話し合い活動」ではない本当のアクティブ・ラーニングとは何かを考えます。
講座 E	6月29日(土) 13:00～16:00 長岡造形大学102講義室 (長岡市千秋4-197)	准教授 阿部 隆幸 准教授 大島 崇行 十日町市立橋小学校教諭 前田 考司(2018年度修了生)	「学習者が主体的に学び合う授業をデザインしよう」	学習者が主体的に学び合う授業づくりについて、「やってみただけど…」 「なかなかうまくいかないんだよなあ」「もっと発展させたい」このような思いはないでしょうか。本講座は、学習者が主体的に学び合う授業づくりについて、その考え方や方法について学ぶ講座です。実践紹介や体験を基にその授業の背景にある考え方について迫ります。
講座 F	7月6日(土) 13:00～16:00 長岡技術科学大学アクティブラーニング室2(AL2) (長岡市上富岡町1603-1)	長岡技術科学大学 准教授 高橋 弘毅 上越教育大学 教 授 水落 芳明 准教授 大島 崇行 准教授 榊原 範久 (共催: 長岡技術科学大学)	「ICTを活用した協働的な授業づくり～AIは授業をどう変えるか～」	ICT教育について苦手な方から得意な方までを対象にした講座です。今後その活用が求められるICT機器について様々なアプローチから迫ります。内容は「ICTと学び合う授業づくりについての考え方」・「CSCLシステムedutabを使ったタブレット端末を活用した協働的な授業づくりの体験」、そして、最先端の研究に取り組んでいる長岡技術科学大学高橋弘毅准教授による講演「協働的な授業づくりAIはどう機能するか?～先生とAIが協働するのは夢ではない!～」です。ICTの日常的な活用から最先端の研究まで一緒に学びましょう。
講座 G	8月19日(月) 10:00～12:00 新潟大学総合教育研究棟B453 (新潟市西区五十嵐2の町8050)	准教授 片桐 史裕	「小中高大接続で子どもの将来を見すえた授業デザインを考える」	今や、進路指導が「出口指導」となっています。学校卒業時に次の学校、次の就職口に入るための指導が中心となっています。目の前の子どもが将来どのような社会課題に直面するのかを想定して、授業をデザインすることが必要になります。みなさんでどのようなデザインが適切か検討してみしましょう。
講座 H	10月18日(金) 14:00～16:00 新潟国際情報大学大会議室 (新潟市西区みすき野3-1-1)	教授 岩崎 浩 三条市教育委員会 小中一貫教育推進課 教育センター指導主事 井口 浩(2011年度修了生)	「『深い学び』を可能にする算数・数学科の授業づくり:理論と実践の往還を実現する教師になるために」	算数・数学の「深い学び」は子どもが数学の対象に主体的に関わらなければ起こり得ません。本講座では、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して行われた探究型の授業を例として、授業づくりの秘訣を理論的視点から解き明かします。理論的視点は、授業で起こっている隠れた事実をみる教師の「めがね」となり、授業づくりの秘訣や授業改善を図る上で大切なことに気づかせてくれます。実践に直結する理論的視点に関する講義と演習を通して、理論と実践の往還を実現する教師を目指しましょう。
講座 I	10月30日(水) 13:30～16:30 新潟市立大形小学校 (新潟市東区大形本町2-6-1)	教授 佐藤 多佳子 新潟市立大形小学校教諭 岩崎 直哉(2014年度修了生)	「この問いは物語の授業をデザインするー見方・考え方を育てる国語の授業ー」	子どもたちが仲間とかかわり合いながら、自分の読みを創りあげていくには「問い」が重要であると考えます。岩崎直哉教諭による文学の読みの授業とその解説・協議を通して、子どもたちの学びの事実をもとに「問い」をどのようにつくるのかを学び合ひましょう。